

県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会
 金沢市弥生1丁目26番1号
 金沢市立泉中学校内
 電話(076)242-2411

編集 石川県小中学校教育研究会
 広報部

印刷 株式会社 山 越

「こんな時だからこそ・・・」



石川県小中学校教育研究会
 会長 高橋佐代子

「こんな時だからこそ、やりましょう。」

今年一月、能登半島地震直後に開かれた理事会で、能登地方の理事の方から出た言葉です。こんな時だからこそ、私たち教職員は学びを止めてはならない、今こそ石川県全体の教職員がつながる時なのだと思われかされた瞬間でした。

一時は開催が危ぶまれた第十二回研究大会ですが、八月二日にオンラインで開催することができました。当日は県内多くの教職員の方々にご参加いただき、大変嬉しく思っています。特に地震により今なお困難な状況が続いている中、ご参加いただいた被災地域の教職員の皆様には、心からの敬意と感謝を申し上げます。

さて、本研究会は石川県内の小中学校における教育の質の向上を目指し、平成二十四年六月に、十六の郡市学校教育研究会と二十四の各教科等の研究団体が結集して設立されました。

本研究会設立の趣意は、県内の小中学校教職員が、一堂に会して研究会を開催するとともに、研究会のネットワークを県内全域に広げ、授業研究等の教育研究活動を活発に行うことで、本県小中学校教育の充実と児童生徒の学力向上に貢献することです。設立以来、着実に研究実践を

重ねてきた本研究会ですが、地震の影響も鑑み、アフターコロナとなった今年も引き続きオンライン開催といたしました。

従来のような集合型研究会はもちろん大切です。しかし、児童生徒にとって一人一台端末がもはや文房具の一つとなりつつある今、私たち教職員自らがICT機器を最大限に活用し、スキルを高めていくことも重要だと考えます。同時にそれが業務の効率化や働き方改革にもつながるものと確信しております。

現在、教員の大量退職、若手教員の増加、教員採用倍率の低下、教員不足・・・と、私たち教職員を取り巻く問題は山積しています。こんな時だからこそ、私たち教職員は力を合わせ、つながりあう必要があるのではないのでしょうか。そして、令和の日本型学校教育の構築を目指し、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、これまで以上に県内教職員が力を合わせ、授業力向上に努めていかなければなりません。

最後になりましたが、石川県教育委員会、市町教育長連合会、石川県小中学校長会、石川県PTA連合会の皆様には、日頃より本研究会の活動を支えていただき、厚く御礼申し上げます。会員ならびに関係団体の皆様に

おかれましても、本研究会の運営に当たり今後一層のご理解とご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

令和六年度
 石川県小中学校教育研究会
 第十二回研究大会
 令和六年八月二日(金)
 ライブ配信

『記念講演』

演題「ICTを活用した学び

方の変化と課題」

講師 北陸学院大学教授 村井万寿夫氏

十年前の二〇一一年、「学びのイノベーション事業」が始まり、二〇二〇年にはその時イメージされていた学び（大型モニター、タブレットの使用）が実現されている。時間的・空間的制約を超えて分かりやすい授業が展開されている（一斉学習・個別学習・協働学習）。

二〇一九年には「GIGAスクール構想」が始まった。ICT端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであり、わかる授業や魅力ある授業の実現に役立つ。ICT端末の効果的な活用になるためには、次の三観点が必要となる。

- ① デジタルの良さがググッと生かされていること（例…学習アプリを使って平行四辺形の面積を求める方法を考える）
- ② 電子黒板と黒板の双方のメリットを巧みに組み合わせること（例…残したいものを黒板に、詳しく見せたいものを電子黒板で提示する）

③ 学習者の意思決定の場が意図的に埋め込まれていること（例…個々に課題や解決方法を選んだり、自分と異なる考えに触れたりする）

二〇二三年には「デジタルの力を活用した教育の方向性」が文部科学大臣から示された。魅力ある授業の構築のために次の五つをピックアップする。

- ① 各自の考えをすぐに共有（例…LINEのようなアプリで考えを共有する）
- ② 多様な意見に触れられる（例…各自の端末上で他のたくさんの方の考えに触れる）
- ③ みんなに順番がある（例…グループで役割を分担したり、自由に動いて考えを伝え合ったりする）
- ④ 学びたいコンテンツに便利にアクセスできる（例…インターネットを使って調べる）
- ⑤ すぐい人からも学べる（例…YouTube動画の専門の人から数学を学ぶ）



これまでは時間・場所などによる制約があり、全員が同じ内容を学習し、意見を発表する子どもに限られていた。分かっているけど黙っている子どももいた。教師は紙の教材を準備し、同じ教室の間や同じ教師から学ぶことが多かった。安定感があったが、硬い授業であった。

これからはデジタルを活用した学びにより、各自の考えをす

《記念講演感想・質疑》

感想①

ぐに共有し、多様な考えに触れられる。みんなに順番があり、学びたいコンテンツにアクセスし、すごい人からも学ぶことができ。個々の子どもの動きが様々になり、授業に不安定感が出るかもしれないが、こういった魅力ある授業・楽しい授業を創っていくことが求められている。

・ICTを活用した「魅力ある授業」づくりについてわかりやすく教えていただき、たいへん勉強になりました。一人一台端末が導入されて五年目になりませんが、最初の一、二年くらいはとにかく使ってみようという気持ちで端末を用いていたため、講演の内容で言えば、当時は「代用」活用が多かったのかなと思います。本日紹介された学校や先生方の授業実践では、オンラインを用いて子どもたちが各自の考えを共有したり、ジャムボードを活用して多様な意見に触れたりする様子が紹介されており、子どもたちを基点とした協働的な学びの姿がよく伝わってきました。今後は一人一台端末やICTを使っているからよいわけではなく、どのよう

に「有効」活用できているかという視点で考え、「魅力ある授業」づくりに取り組んでいきたいと思います。

感想・質問②

・授業へのICT導入の意義を始め、今後の実践につながる様々なお話をしていただき、とても参考になりました。授業の

終末に、オンラインを活用しリフレクション(振り返り)を行うことで、教師側の紙媒体回収の手間を省くことができたり、子どもたちが互いの意見や学びを共有できたりする利点や教育効果を感じています。しかしながら、中には毎回授業終わりにタブレットPCの操作を行うことに面倒さを感じている子どもたちもいて、机上の整理整頓と併せて端末使用に對し後ろ向きな様子も見られています。ワークシート類をすべて電子データ化し子どもたちの端末に配信することも検討しましたが、読み書き能力育成の観点からすると懸念材料も多く悩んでいます。何かご助言をいただければ幸いです。

質問②への返答

・小中学生に共通して、紙で書かれたものを読む方がICTのディスプレイに映る文字を読むよりも読みやすいということが分かっています。その一方、ICTのよさは、例えば国語のデジタル教科書を端末で読みながら印を付いたり、光村図書であれば「マイ黒板」という機能を活用したりして、自分の考えをよりまとめやすくすることができま

いと言っている子どもたちには、ICTを使ってみると自分たちの学びにとつてよいことがあるという成功体験を与えていくことが大切になります。端末から提出させる課題は、テキストとしてデジタル処理しやすいというメリットがあり、また、生成AI(ChatGPT)を活用し、出した意見を分析させたり、分類させたりすることも可能です。学校教育現場において一人一台端末や生成AIを活用する際の課題や問題点について留意しながら、今後はその可能性について研究を積み重ねていくことが有益であり、学習者にとつても、教師にとつても学びやメリットがあることを子どもたちに伝えていくことが大切だと思います。

質問②への返答を受けて

・ChatGPTの活用については、新しい発想で面白そうだなと思いました。是非、参考にさせていただきます。ありがとうございました。

感想・質問③

・具体的な事例を多数交えたお話を伺いながら、自身や自校の授業実践について、「デジタルならではの学びの充実」ができていないか、「魅力ある授業」ができていないかを振り返るよい機会となりました。「デジタルならではの学びの充実」や「魅力ある授業」について先進的に取り組んでいる学校は、どのようなことを努力したり、取り組んだりしているのか、キーワードのようなものがあれば教えてください。

質問③への返答

・金沢市立森本中学校では、「代

教科等別研究協議会報告

第一分科会

発表①「石川県数学教育研究会 金沢市立森本中学校 濱本隆成教諭」

「用」「有効」をキーワードに、日常的に紙で行っていたことを積極的に端末で行う試みを行いました。また、その中でどのようなことが「有用」であり、さらに何が「有効」となるのかを分析・整理した蓄積を持っており、現在もそのような取組を基盤として学校研究に取り組んでいます。今年度は「魅力ある授業」を念頭に、さらに「自由度のある授業」をめざして実践を行っており、秋に研究発表会を予定しています。金沢市立泉中学校も同様に研究が進んでいると思います。

「関数領域におけるICT活用の効果」を研究主題とし、①

数学的活動の楽しさや数学の良さを実感させる、②数学を生活や学習に生かそうとする態度を育成する、の二点をねらいとしたICTの利活用についての実践報告がなされた。①では、関数分野において生徒の興味・関心を引き出し、数学の良さを実感させたりするためのICT利活用の具体的方法(アプリケーションソフトやその利用法)が紹介された。②では、既習事項を活用したり条件を変えて一般化したりする学習での効果的なICTの利活用場面が紹介された。

成果として、生徒の学習意欲

が高まることや生徒自らが自信を持って自分の考えを表現(説明)できるようにすること、加えて「グラフを描く」といった個々の能力差を縮めるために有効であることが挙げられた。今後の課題は、使用のタイムリ



ングや指示の出し方、タイムマネジメントといった授業展開における教師側の技量の向上がICTの利活用には欠かせないということである。これまで以上に便利で効果的なアプリケーションツールの開発が進んでいく中で、素早く情報を入手し活用を繰り返す中で、より良い利活用の方法を模索し続けていくことが何よりも大切になってくることの示唆を頂ける貴重な実践報告であった。

発表②「石川県図工美術教育研究会 金沢市立泉小学校 岡田美絵教諭」

「二人一人が輝く造形活動」見方・考え方を働かせて」を研究主題として実践発表が行われた。昨年度行われた石川県図工美術教育研究会・金沢大会での取組を中心に①GIGAスクール構想を踏まえた授業及び授業研究会、②豊かな発想を促すための実技研修会、③地域施設との連携、の三つの視点からの報告であった。

①では、「鑑賞授業の肝を紐解く」をテーマに、ファシリテーターを中心に参加者と対話しながら授業を分析・考察した。

また、国立工芸館の学芸員を迎え国立工芸館の作品を鑑賞した。作品を主体的に鑑賞し深く感じ取らせる効果的な手立てや、ICTを活用することで学校の立地に関わらず魅力的な鑑賞活動が実現できることを共通理解できた。

②では、八つの実技研修を通して学びを深めた。子どもの立場に立つことで見えてきた課題について話し合えたこと、ベテラン教師や子どもも交流センターの指導員が講師を務めたことで、ベテラン教師が培ってきた授業観・指導観を次世代につなぐ機会となった。③については、地域施設の国立工芸館の学芸員の話聞き、見方・考え方を働かせ学びを深めていく子どもの姿から、プロから学ぶ意義や価値について再確認した。



このように、小中が連携し研究を深めることができたと共に、若手もベテランも切磋琢磨し次世代に学びをつなぐことができたことが大きな成果と言える。

【第一分科会】

発表① 「石川県理科教育研究協議会 金沢市立泉野小学校 山岸 鴻太 教諭」

「グローバル社会を生き抜く人間を育てる理科教育」を研究主題とした授業実践の発表がなされた。この研究主題に迫るために「①理科の見方・考え方を働かせる工夫」「②主体的・対話的な学びを働かせる工夫」の

二つの重点から授業実践を積み重ねた。①では、六年「植物のからだのはたらき」の学習において、動物（自分の身体）と植物を比較・関連付けて考えられるように単元を構成した。また、一種類の植物だけではなく、ジャガイモ、ホウセンカ、アサガオなど児童にとって身近な植物を数種類扱うことで、植物の共通性や多様性に気付けるようにした。さらに、毎時間学んだことを図に書き加えることができる「植物不思議ブック」の作成を通して、理科の見方である「共通性・多様性」に関連した考察や振り返りにつなげた。



②では、六年「てのはたらき」の学習において、第三種のに加わる力を、電子天秤を使って数値化し計測したデータをグラフで表し、結果を視覚的に把握できるようにした。そうすることで、根拠が明確な考察からの対話につながった。今後は、学習内容を一般化するために、教材の提示のタイミングを吟味する。また、実験装置をより効果的に活用するために、実験の目的や数値の意味を深く理解させ、児童一人一人に「確かめる・見つける」ことへの必要感を高めていく。

発表② 「石川県音楽教育研究会 志賀町立志賀小学校 東 由紀 教諭」

「第二十五回石川県音楽教育研究大会 能登地区大会」での

研究授業の報告がなされた。研究主題は「ときめき ゆらぎ」そして「きらめく くあふれる思いを音にのせて」である。二つの重点「主体的・協働的に学び、音楽表現を工夫する」「ICTを効果的に活用し、深い学びをめざす」ことを踏まえて、第五学年「いろいろな音色を感じ取ろう」第三次「音楽づくり」の二時間目の実践発表が行われた。

子どもたちは、図形楽譜を基に対話を重ね、必要に応じてタブレットを使うなど、学び方を選択させることで話し合いが活発に行われた。また、「話し合い、演奏、録音、聴く」という学習活動を往還することを意識させたことで、試行錯誤する姿が見られた。子どもたちは、近くのグループへの行き来も自由に行い、互いにアドバイスをし合い、より音楽表現の工夫へとつながっていた。しかし、音楽づくりにおいて、「思いや意図」をもたせることは大切だが、そこばかりに焦点を絞ってしまつたことで、子どもたちがいろいろ試して演奏しながらイメージを作り上げていくなど、即興表現の面白さを取り入れることも視野に入れる必要が明らかになった。また、教師による児童の考えや演奏への価値づけの重要性が再認識された。教師の出場のタイミング、発問の工夫等、教師の役割は今



後も非常に重要である。

【第三分科会】

発表① 「石川県学校体育研究会 加賀市立山代小学校 松田 大輔 教諭」

「ゴール型での自由進度学習」フラッグフットボールの実践」を研究主題として、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す中で、①単元の中でどの程度自由進度学習を取り入れるのか②どのような準備が必要なのか③どのように振り返りを行うか④視点を置き実践報告がなされた。

成果として、①第二次全てを児童に委ね毎時間のめあてや活動内容を自分たちで決めて行わせることで、チームごとに練習内容を工夫する姿につなげることができた。②ワークシート、ゲームに関する資料、作戦集、練習に関する資料をgoogle classroomで児童と共有した。必要な時にいつでも見ることのできる環境のおかげで、トライ&エラーを繰り返すことができ、チームの活動が充実していった。③ミライシードのオンラインを活用し振り返りを行った。友達の内容を見ることができ、自分の積み上げを確認できる、運動量を確保できるというメリットが見えてきた。

一方で、四十五分間のタイムマネジメント、チームから全体の学びへとつなぐ教師の役割、



一人一人がねらいを達成できているかの見取りなど課題も見えた。

発表② 「石川県小学校体育研究会 金沢市立泉野小学校 矢代貴之 教諭」

「運動のおもしろさを中心に据えた陸上運動」子どもたちが夢中になって取り組む『走の運動(遊び)』を研究主題として、研究実践の報告がなされた。今年度は昨年度の反省を生かし、教師主導から子どもファーストの授業づくりを目指した。運動の得意な子だけでなく、苦手な子も「やってみよう！次の時間も頑張りたい！」と思える単元構成を大切にすることができた。特に、「共創」という視点を入れたことで陸上運動系の特性上、個人で取り組む傾向になりがちであるところ、仲間と場や道具を工夫する楽しさやルールを工夫する楽しさ、応援し合う楽しさ等多様な楽しさを味わい、運動の世界が広がっていったと感じている。支援が必要だと思われる子どもも、ハードルを乗り越えることに夢中になっていった。単元前半に多様な楽しさに触れてから単元後半に向けておもしろさを味わえるようにシフトチェンジしていく流れを考えたことも良かった。



実践報告後の協議では、複数の質問があり実りある時間となった。

研究会紹介

石川県養護教育研究会

本会は県内小中学校だけでなく、高等学校や特別支援学校、幼稚園に勤務する養護教諭を含めた三三〇名が共に活動しています。健康教育の充実と養護教諭の資質向上をめざし三つの取組を毎年継続しています。

一、養護教員研究協議会開催

今年度は金沢大学 医薬保健研究域 谷口巧教授の講演「養護教諭が行う救急対応」と会員三名の実践発表を動画収録しました。期間限定のオンデマンド研修ですが、会員からの質疑やふり返りを丁寧にフィードバックしています。コロナ禍や地震の影響で参集できない期間も学び合う機会を大切にし、自らの力量形成を図っています。

二、調査研究

今年度は「能登半島地震における養護教諭の対応」をテーマにアンケート調査、インタビュー調査を実施しています。最大震度七を観測した令和六年元旦の地震により、震源となった能登地方を中心に県内各地に甚大な被害が広がりました。家屋が倒壊し、道路や水道管等ライフラインの復旧が大変長引き、児童生徒たちを取り巻く環境が激変、学校生活にも大きな支障が出ました。学校再開や保健室の機能を取り戻すために今も尚、奮闘している被災地の養護教諭の活動を記録に残し多くの方と共有したいと考えています。断水時

に感染症をいかに防ぐか、集団避難や分散登校下の健康観察や心のケアをどうするか、保健室備品の補充等、養護教諭が直面した課題は多岐にわたるものでした。これらの課題と対策を整理することは、今後の養護教諭としての備えや執務を考える上で意義のある取組になると考えます。金沢大学人間社会研究域 学校教育系 岩田英樹教授、森慶恵教授の研究支援、助言を求めながらまとめる予定です。

三、養護教員研究集録発刊

各地区研究の紙面発表を含め一年間の活動や歩みの集大成となる集録を二月に発刊します。本会は「ホームページの活用」を推進しています。本会からの連絡や学校保健関係組織等からの情報を掲載し、会員間で情報共有することが浸透してきました。震災直後から災害関連情報、本会の研究資料、他県の研究會から寄せられた資料、研究者や行政、支援団体からの情報等を発信しました。「勤務校に行けなくても、執務パソコンが使用できなくても手持ちの携帯端末から閲覧でき、仲間とのつながりが感じられて嬉しかった、不安な中で情報が得られて心強かった」との声が届きました。情報をデジタル化し共有するシステムをもつことの利点を実感しました。「養護教諭は一人職と云われるけれども決して一人ではない」、今後も仲間とのつながりや研究を積み上げていくことに資する研究会をめざします。

(文責 内灘町立清湖小学校 宮村 智子)

石川県小学校体育研究会

石川県小学校体育研究会では、①一人一人が主体的に参加し、体育学習を窓口楽しく語り合える会とする、②これまでの考え方を土台にしながら前向きに体育学習をつくりあげていく過程を楽しみ大切にしていける、③授業実践の交流を通じて、分かちあえる研究かつ他の先生方にも波及するような研究を目指す、④若手教員を勧誘し金沢の体育の土台、根幹をさらに太くする、の四つを基本方針とし、運動が持つ多様な楽しさをより多くの子どもたちが味わい、「運動が好き」「体育が好き」という子が増えていくことを願い、日々取り組んでいます。研究会の開催日は隔週木曜日の午後六時から午後七時を基本とし、八月に夏季学習会、十月に授業研究会、そして十二月に石川県小学校体育研究会を開催しています。

研究内容としては、平成十一年度より研究主題を「ひらこう 体育学習の世界を」とし、体育の授業について研究を進めてきました。その後、「運動固有の楽しさを中心に据えて」「運動のおもしろさを中心に据えた体づくり運動」「運動のおもしろさを中心に据えた陸上運動」と研究主題は変遷してきましたが、研究の根底には、運動や自分自身、友だちに対し自らの心をひらき、運動が持つ様々な楽しさを味わう中で、一人ひとりが持つ「自分」「仲間」「モノ」で構成される運動の世

界を広げ、自ら運動に関わっていきこうとする子どもたちを育てていきたいという願いが流れています。令和二年度からは陸上運動系に研究の領域を絞り、「投の運動(遊び)」、「跳の運動(遊び)」と研究を重ね、令和五年度は「走の運動(遊び)」に焦点を当て、ハードル走と短距離走・リレーを中心に研究を進めました。そして、十二月の研究大会では、三年生の「小型ハドル走」の授業と五年生の「短距離走・リレー」の授業を公開しました。令和六年度からは、新たに「共生」という視点を入れることで、個々の様々な違いを受け入れ、誰もが運動のおもしろさを心から楽しめる、そんな体育学習を目指し、研究を進めています。

さて、昭和三十七年に「金沢市体育研究サークル」の名称で創始された本研究会は、昭和四十七年から「金沢市小学校体育研究サークル」と改称、その後、昭和五十年からは県下全域に組織を拡大し、「石川県小学校体育研究会」という現在の名称となりました。そして、令和五年度には、節目となる第五十回記念大会を、たくさんの先輩方にもご参加頂き、盛大に開催することができました。これまで築き上げた体育研究の多くの技術と「子どもを体育好きにさせたい」という思いを継承し、これからも体育研究に努力し続けていきたいと思えます。

(文責 金沢市立四十万小学校 脇田登志昭)

令和六年度役員

- 会長 高橋佐代子(泉 中)
- 副会長 後山 利佳(西 小)
- 徳楽 仁(志賀中)
- 北村 弘樹(安原小)
- 総務部長 宮坂 巖(高尾台小)
- 研究部長 北村 弘樹(安原小)
- 調整部長 徳楽 仁(志賀中)
- 広報部長 折戸 陽子(芝原中)
- 会計部長 山下 悟(錦城中)

広報部員

- 部長 折戸 陽子(芝原中)
- 副部長 干場 和代(東湊小)
- 幹事 中口健太郎(朝霧京小)
- 直江 賢一(清泉中)
- 中川 欣哉(内灘中)
- 前田 千里(広陽小)

編集後記

新型コロナウイルスも第五類へ引き下げとなり、学校においても様々な教育活動の制限が取れ早一年になりました。しかしながら、すべてを元通りに戻すのではなくICT活用の促進も含め、これを機に見直され改善された面も多々あるように思います。今年度の研究大会もその一つ、時間的・地理的制限に配慮したライブ配信での実施となりました。学校現場も不易流行の精神をもって、本質的なものを忘れない中にも新しく変化を重ねていくものも取り入れ、変化に柔軟に対応していくことが求められているのだと思います。第二号発行にあたり、ご協力いただきました関係者の皆様にごこの場を借りて感謝申し上げます。

(広報部 折戸 陽子)